

研修会報告

2021年6月17日（木曜日）14:00～15:30 オンライン開催
第15回医療・介護関係者の研修～地域で生きるために～
「精神科リハビリテーションについて」—精神科疾患を学ぶ シリーズ第2回—

2019年にシリーズ第1回を開催し、大変好評を得た研修会の第2回目を開催することができました。第1回目と同じく、西村先生にご講演を頂き、精神科疾患への理解を深めるとともに、事例紹介や質疑応答を通して、多職種の関りや連携について考える事のできる研修となりました。オンライン研修ではありましたが、43名の方々にご参加頂き、つながりを持つことができました。

講師：関西青少年サナトリウム 精神科医師 西村 暢宏氏

演題：精神科リハビリテーションについて（統合失調症を中心に）



《講演内容》

- ・統合失調症の方の生きづらさ
- ・障害をもたらす基盤としての脳機能
- ・共生社会の理念
- ・リカバリーとは
- ・精神障害者リハビリテーションの基本的な考え方
- ・精神障害者リハビリテーションのアプローチ
- ・事例紹介：入院から就職するまでの多職種の関わり

《講演の要点》

- ・精神症状と生きづらさは分かちがたく精神症状が軽減しても生きづらさは残る。
- ・共生社会の理念では、本人の自己決定に基づくということが最も大切
- ・リカバリーとは、疾病からの回復だけでなく、「失ったもの」を回復し自立した生活を送る事。
- ・リハビリテーションは、リカバリーを目指す事。

《質疑応答》…各質問に対し、丁寧に対応頂き、貴重なコメントを頂きました。

- ・主治医との連携が必要。事業所内で会議、保健所に相談等、1人で抱え込まず、他者からの視点を得る事。
- ・楽しいと感じる事など丹念に聴き、出来ている事を見つけ、それを少しずつ広げ、解決の糸口を見つける。
- ・受診を諦めずに働きかける。家族や事業所と情報を共有し、目を離さず、細々とでも繋がっておく。
- ・季節の変わり目は自律神経の乱れから精神的不安定が起きやすい。コロナ感染予防による制限が人から隔離された環境を作り出し、妄想などの症状が悪化することもある。
- ・基本、上手いかないと思ってやっていく事が必要。人は変わらない。こちらが良いと思う事も相手には良いイメージがわからないため受け入れてもらえない。いざという時に手を差し伸べられる事が大事。

《講師からのメッセージ》

- ・サービスを提供する方は、サービスを受ける人からするとパワーを持っている人たち。このことを自覚しておくことが大事。支援する側は、何でわかってくれないの？と思いがちだが、一歩引いて考える事。
- ・その人の考え、人生を大事にすることが必要。
- ・いろんな人がいる。その人の良いところ探しをしておく、お互いにしんどくなりにくい。

《参加者の感想》…アンケートからの一部抜粋

「良いところや強みを見つけて支援に繋げたい。」「リカバリーの理解と地域社会での共存をもっと進めていけるような支援が必要。」「症例を通して多職種で関わることの重要性を学べた。」

アンケートにご協力頂きました皆様、沢山のご意見ありがとうございました。

西区医療介護サポートセンター